

6.乳幼児健診検討会議報告について

会議の目的について

会議の目的について		乳幼児健診の目的	現状と課題
個別 (医療機関委託)	4か月児健診	①脳性麻痺、発育性股関節形成不全、先天性心疾患などの徴候を早期発見し、治療やリハビリテーションにつなげる。さらに、出生時すでに発見されている障害や疾病をもつ子どもには医療との連携をとりながら障害や疾病の経過を確認するとともに、親子が安心して生活できるよう支援を開始する。 ②発達の遅れや育てにくさのある子どもを早期発見し、発達支援や子育て支援へつなげる。 ③不適切な養育の早期発見・予防のため育児に困難や不安を感じている保護者の把握に努め、保護者への支援や介入を始める。	<ul style="list-style-type: none"> ・委託方式としているが、事業の評価や検討が行えていない。また、市と医療機関で協議する場がなく精度管理ができていない ・虐待リスクの基準の統一がすり合わせできていない(低体重、不適切な養育等)
集団	10か月児健診 1歳6か月児健診 2歳6か月児健診 3歳6か月児健診	①子どもの健全な育成、健康増進を図る。 ②障害の早期発見・早期療育を推進し、福祉・教育に繋がる最初の役割を担う。 ③不適切な養育を早期発見し、早期に子育ての支援が必要な乳幼児を把握する。	<ul style="list-style-type: none"> ・診察時の観察の仕方が医師により異なる ・診察時の基準、フォローが決まっていない(低身長・低体重、停留精巣等) ・尿検査の流れが決まっていない



乳幼児健診検討会議の目的

乳幼児健診に関して関係機関と連携をとりながら課題を検討し、乳幼児の健全な育成と健康の増進に資することを目的に開く。今回は乳幼児健診に携わる従事者が統一した視点や基準をもち、適切な支援ができるようにすることを目的とする。

内容・方法

意見交換をする中で手引きの修正・見直しを行い、基準の統一をはかる。また、各医師をはじめとした従事者に決定した内容を周知していく。

会議で出た御意見、今後の検討課題

- ・健診全体の流れ、各健診従事者の役割分担、フォローなどが医師に周知できていない。
- ・健診にあたる医師に具体的な説明ができていないまま、対応していただいております、基準が曖昧になっている。
- 【今後】
 - ・日頃からのコミュニケーションが必要。また、手引きに全体の流れやフォローについて追加する。
 - ・問診時に肥満や体重増加不良、精神発達面など支援が必要な場合は、診察でもわかるよう医師に伝えていく。
 - ・診察時、身体面だけでなく精神発達面等も含めて判定をしていただく。
 - ・カウプ指数等、フォローする基準が明確にできるものは一律取り決め、手引きに追加し、統一していく。
- ・早産児は修正月齢で4か月健診を受診する場合、出生から期間が空いてしまうが、そこまでフォローが抜けるのはよくない。4か月で健診をした後、さらに継続して修正月齢でも見ていく必要があるのではないか。その場合2回目も市の4か月児健診としての扱いができるか。
- 早産児の場合、出産は総合病院等でされることが多いが、その後地域のかかりつけ医と早くつながっておく必要がある。
- ・健診から精密検査となる場合、精密検査依頼票を出す、病院によっては選定療養費をとる場合がある。県下で一律かからないように働きかけていく必要があるのではないか。
- ・草津市は股関節で要精査となる率が低い。